第99号
令和元年11月

弓削商船だより

独立行政法人 国立高等専門学校機構 弓削商船高等専門学校
〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地 TEL 0897-77-4617 FAX 0897-77-4680
企画広報室 情報・広報係 ホームページアドレス http://www.yuge.ac.jp/

令和元年度 商船学科卒業式 9月

目次

令和元年度後援会総会 …… 1
令和元年度第1回オープンキャンパス …… 1
令和2年度編入学試験状況 …… 1
インターンシップ参加企業一覧 …… 1
インターンシップ学生体験談 …… 2
令和元年度商船学科卒業式・専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了式 …… 4
令和元年度商船学科卒業生各賞受賞者一覧 …… 4
乗船実習を通して …… 4
令和元年度商船学科卒業生就職先一覧 …… 5
令和元年度商船学科卒業生進学先一覧 …… 5
令和元年度専攻科(海上輸送システム工学専攻)入学式 …… 5
令和元年度後期級長・副級長・学級担任一覧 …… 5
国際交流参加者一覧 …… 6
コロラド州デンバー・ベアクリーク高校生との交流 …… 6
モンゴル科学技術大学との国際交流 …… 6
フィリピン留学(エミリオ・アギナルド大学) …… 7
NTMA留学で学んだこと …… 7
フィリピンMAAP練習船体験乗船 …… 8
各種試験合格者一覧 …… 8
地域創生コーナー …… 9
瀬戸内国際ヨットラリー2019「弓削島」 …… 9
地域創生演習(老人ホームでの福祉ボランティア、小学校での補習ボランティア) …… 9
徳島小松島乗船体験 …… 10
公開講座 …… 10
第56回高等専門学校体育大会 …… 11
クラブ活動成績 …… 11
クラブ活動体験談(野球部・剣道部・柔道部) …… 12
各種行事のアルバム …… 13
商船だより第98号掲載記事の一部欠落について …… 14
学生相談室 …… 15

令和元年度　後援会総会

令和元年6月30日（日）午前9時30分から、本校第二体育館において、約140人の保護者参加のもと、令和元年度後援会総会が開催されました。

本校からは、校長、教務主事、学生主事、寮務主事、学科長、専攻科長、事務部長、学生課長、総務課長代理および関係課の係長が出席しました。総務課長代理の司会進行で、会長・副会長・会計幹事の選出が行われ、平成30年度決算報告ならびに令和元年度予算案が審議され、原案の通り承認されました。

令和元年度　第1回 オープンキャンパス

令和元年度第１回オープンキャンパスが、令和元年７月20日（土）、21日（日）の２日間にわたり開催されました。今年度は、広島県、愛媛県、岡山県を中心に、生徒 259 人を含む 619 人（前年度より 206 名増）の方々が、本校キャンパスを訪れました。

このイベントは、本校の教育の一部を体験していただくこと、中学生の皆さんが進路を決定するための情報を提供することを目的として、毎年実施しているものです。

各学科の概要説明に加え、商船学科では、弓削丸体験航海、電子機械工学科や情報工学科では、教育・研究活動の紹介やプログラミング体験を行い、その他、学寮見学や進路相談、部活動見学も実施しました。

参加者の皆様からは、「弓削丸の舵取りが楽しかった。」「プログラミングの面白さや機械を正しく動かすための工夫が物作りにおいて大切であることを学んだ。」といった感想をいただきました。さまざまな参加型イベントを体験し、本校の施設・設備、教育内容の一端にふれていただけたのではないでしょうか。

参加された生徒の、本校への興味や進学意欲の向上、将来の選択肢の一つに繋がってくれればと思います。

令和2年度　編入学試験状況

本校電子機械工学科および情報工学科 4 年次編入学試験が、令和元年８月26日（月）に実施されました。応募状況は、電子機械工学科３名、情報工学科３名の計 6 名でした。編入学試験の結果、電子機械工学科１名、情報工学科１名が合格しました。

電子機械工学科インターンシップ参加企業一覧

（50音順）

株式会社アイチコーポレーション	アイワ技研株式会社	株式会社赤阪鐵工所
アンデックス株式会社	株式会社イシダ	エヌエスディ株式会社
NOK株式会社	株式会社NTT-ME	キヤノンメディカルシステムズ株式会社
株式会社キャンピングカーランド	協和化学工業株式会社	株式会社光電製作所
国際ケーブル・シップ株式会社	コニカミノルタジャパン株式会社	GEヘルスケア・ジャパン株式会社
シグマ光機株式会社	株式会社島津アクセス	島津メディカルシステムズ株式会社
株式会社ＳＵＢＡＲＵ	住友化学株式会社	ダイキンMRエンジニアリング株式会社
ダイハツディーゼル株式会社	大洋電機株式会社	株式会社椿本チエイン
株式会社帝国機械製作所　松阪工場	帝人株式会社	株式会社ニコン
日信電子サービス株式会社	日本オーチス・エレベータ株式会社	パーソルR&D株式会社
株式会社FEBACS	フジテック株式会社	富士電機株式会社
株式会社堀場製作所	本州四国連絡高速道路株式会社	株式会社マツダＥ＆Ｔ
三井Ｅ＆Ｓシステム技研株式会社	三菱重工機械システム株式会社	三菱電機株式会社受配電システム製作所
三菱電機プラントエンジニアリング株式会社	村田機械株式会社	ムラテックCCS株式会社
ヤンマーエンジニアリング株式会社	株式会社ユノス	

情報工学科インターンシップ参加企業一覧

（50音順）

株式会社イシダ	e.TEAM ANA（ANA整備部門グループ会社）	NHK広島放送局
NOK株式会社	株式会社NTT-ME	NTTコムエンジニアリング株式会社
株式会社NTTフィールドテクノ　四国支店	大分キヤノン株式会社	関西電力株式会社
キヤノンシステムアンドサポート株式会社	京セラ株式会社	京セラコミュニケーションシステム株式会社
株式会社ザイマックス	さくらインターネット株式会社	株式会社JALエンジニアリング
JFEスチール株式会社西日本製鉄所	住友化学株式会社	ソニーエンジニアリング株式会社
中国電力株式会社	株式会社ビーネックスソリューションズ	株式会社日立ビルシステム
富士ゼロックスサービスリンク株式会社	株式会社堀場製作所	株式会社マイスターエンジニアリング
株式会社マツダＥ＆Ｔ	三菱電機システムサービス株式会社	ムラテックCCS株式会社
メタウォーター株式会社　日野事業所		

商船学科インターンシップ参加企業一覧

（50音順）

川崎汽船株式会社	川崎近海汽船株式会社	株式会社商船三井
ダイハツディーゼル株式会社	日本郵船株式会社	株式会社マキタ
ヤンマーエンジニアリング株式会社		

専攻科生産システム工学専攻インターンシップ参加企業一覧

（50音順）

株式会社イシダ	セイコーエプソン株式会社	東芝ITサービス株式会社
日東電工株式会社尾道事業所		

インターンシップ学生体験談

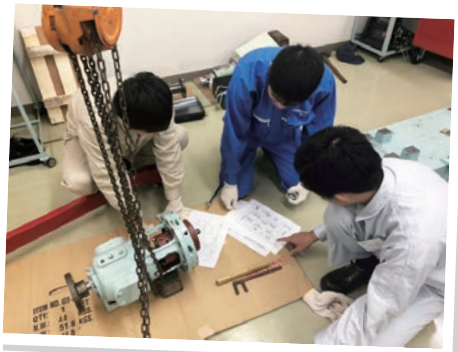
商船学科　4年　航海コース　**塩崎　一真**

私は8月の26日から30日までの5日間、株式会社商船三井のインターンシップに参加し、沢山の発見と驚きを得ることができました。現在の海運に関する、例えばARを用いた航海支援やVRを用いた船員の訓練などの新技術に関する体験の他、実際にそれらの開発に携わっている方の講義もあり、技術開発の進捗状況を事細かに知ることができました。

そこでは私の想像を大きく超える速度で技術開発が行われており、それらが実用化されて行く世代に当たる我々には、既存の船舶運航についての知識はもちろんのこと、新技術へ適応していく力も求められていると感じました。

商船三井という会社についてや、「今」の商船業界の動静を様々な観点から知ることができ、とても意義のある5日間でした。

商船学科　4年　機関コース　**島本　順**



川崎汽船株式会社のインターンシップに参加して、多くの貴重な体験をさせていただきました。通常の業務説明だけでなく、外国人社員の方による英語での業務説明や、入社数年の若手社員の方とお話する機会もあり、大変充実した5日間でした。中でも特に印象に残っているのは、班ごとに分かれて行った遠心ポンプ・ギアポンプの開放です。講師の方は危険がないかの監視に徹しており、事前準備や実際の開放手順など、全て自分で調査し、班員と知恵を出し合って行いました。我々が誤った作業を行いそうな時は、その都度プロの視点から解説や助言を頂き、機関士として心掛けるべき多くのことを学ぶことができました。

インターンシップ学生体験談

商船学科　4年　機関コース　**田村　安志**

私は8月19日から23日の間、日本郵船株式会社（以下NYK）のインターンシップに受け入れていただきました。私は自動車輸送品質グループという部署で、海技者の陸上勤務を経験しました。

私がインターンシップを通じて特に学んだことは2つあります。

1つ目は、海技者の陸上勤務です。NYKでは多くの海上社員が船上での経験を活かして陸上勤務をしていました。例えば、航海系の海技者は、プランナーという、自動車の積み込みを計画する仕事をしていました。この仕事は、海上勤務での現場感覚が活かせる業務です。このようにNYKでは海技者でなければできない陸上勤務が多数ありました。

2つ目は、安全に対する意識の高さです。NYKでは、条約や法律で定められた基準よりも高い安全対策を実施していました。例えば、自動車船の荷役では、どこ国籍の人も理解できるよう、絵で書かれた注意喚起表などがありました。

NYKでは、できる限りのインターンシップ生を受け入れており、今年は弓削商船高専から6名の学生を受け入れていただきました。NYKのインターンシップを経験することにより、外航海運の概要だけでなく、生の海技者の声も聞くことができます。興味がある商船学科の後輩は是非参加して欲しいと思います。

電子機械工学科　4年　**澤口　天芸**

私は、長期夏季休業の間に、GE ヘルスケア・ジャパン株式会社（5日間+説明会1日間）、大洋電機株式会社（5日間）、三菱重工機械システム株式会社（5日間）、アイチコーポレーション株式会社（12 日間）、株式会社SUBARU（1 日間）、株式会社ニコン（1 日間）、計 6 社のインターンシップに参加しました。私が多くの企業のインターンシップに参加したのは、インターンシップを通して業界・企業・職種の理解を深め、自分の仕事の適性を把握したいと考えたからです。

GE ヘルスケア・ジャパン株式会社のインターンシップでは、会社紹介、工場見学、ワークアウトの他、MR 研修、マナー研修などの新人研修、CT や MR などの医療機器の設置・点検・修理作業の見学を行い、実際の仕事の雰囲気を感じることができました。特に、どの仕事場でも、社員の皆さんが主体的に動き、明るく仕事をしていたことが印象的でした。また、海外から取り入れる技術も多いため、英語によるコミュニケーション能力が重要であると感じました。

今回のインターンシップの経験を生かし、就職活動での企業選びだけでなく、自身の実力の向上にも努めたいと思います。

情報工学科　4年　**塩飽　航平**

4年生になり専門科目も増え、そろそろ将来について真面目に考えるべきだと思い始めていました。今になれば、そんな私にとってインターンシップ参加は最適解だったと言えます。

私は大分キヤノン株式会社の4泊5日の実習に参加しました。インターンシップの内容は、1日目は企業説明と見学、2日目から4日目は「サービス」、「生産技術」、「製品技術」の3つの部門での仕事体験、5日目に学んだことの総まとめの発表、というものでした。

この5日間で仕事に対する考えが変わりました。私の考えを変える大きな要因となったのは各部門での仕事体験ではなく、担当者の思いでした。各部門での私の質問「仕事をするうえで一番大切なことは何ですか」に対し、どの方も「やりがい」と回答し、その理由を聞くと「お金も環境も大事だが一番はやりがい。やりがいがあれば、つらいことがあっても仕事を続けられる。」とおっしゃっていました。

私は今まで仕事についてふわふわとした考えしかありませんでしたが、シルエットのようなものが見えた気がしました。

令和元年度商船学科卒業式
専攻科（海上輸送システム工学専攻）修了式

令和元年9月23日（月）午後0時から、本校第二体育館において、商船学科卒業式及び専攻科（海上輸送システム工学専攻）修了式が挙行されました。（表紙写真）

校長、来賓、保護者、教職員、在校生の列席のもと、はじめに商船学科卒業生34名、専攻科修了生2名に証書が授与され、続いて、各賞の受賞者に対する表彰が行われました。その後、校長の式辞が読み上げられ、来賓祝辞、祝電披露に続き、在校生総代（今吉蒼馬さん）の送辞と、卒業生総代（鶴村凜太郎さん）の答辞が行われました。最後に、「ごきげんよー」のかけ声とともに卒業生の帽子が一斉に宙を舞い、卒業生たちは会場の大きな拍手に送られながら学舎を巣立っていきました。

令和元年度商船学科卒業生 各賞受賞者一覧

■体育功労賞

氏名	所属クラブ	活動成績
赤木　剛	野球部	平成30年度第55回四国地区高等専門学校体育大会　硬式野球競技　準優勝 平成28年度第53回全国高等専門学校体育大会　硬式野球競技　出場
岡　駿典	野球部	平成30年度第55回四国地区高等専門学校体育大会　硬式野球競技　準優勝 平成28年度第53回全国高等専門学校体育大会　硬式野球競技　出場
木村　太一	陸上部	平成30年度全国高等専門学校体育大会　110mH, 4×400mR　出場 平成29年度全国高等専門学校体育大会　400mH, 4×400mR　出場 平成28年度全国高等専門学校体育大会　400mH　出場
岡本　直也	陸上部	平成30年度全国高等専門学校体育大会　4×400mR　出場 平成29年度全国高等専門学校体育大会　4×100mR　出場
小川　竜輝	ラグビー部 ソフトテニス部	平成30年度第55回四国地区高等専門学校体育大会　ラグビー競技　優勝 平成30年度第55回四国地区高等専門学校体育大会　ソフトテニス競技　男子ダブルス　準優勝 平成28年度第53回全国高等専門学校体育大会　ソフトテニス競技　男子ダブルス　出場

褒章名	航海コース	機関コース
特別精励賞	室田　大成　越智　匡輝	
全日本船舶職員協会賞	越智　匡輝	前田実知也
同窓会会長賞	小川　竜輝	山本悠梨恵
海技教育財団会長賞	坂本　渚	大本　隆介
日本船舶海洋工学会奨学褒賞	松岡　理人	赤木　剛
日本航海学会奨学褒賞	曳田　叡利	–
日本マリンエンジニアリング学会 優秀学生奨励賞「山下勇賞」	–	鶴村凜太郎
精励賞	岡　駿典　松岡　理人	赤木　剛　大本　隆介　木村　太一 松井　大成　山本悠梨恵

乗船実習を通して

商船学科　5年　曳田　叡利

私は、令和元年9月10日、一年間の乗船実習を無事終えることができました。一年間とは長いようですが、充実しすぎて時間が過ぎるのが早かった、という印象です。自ら操船する緊張感と4時間の当直を終えたときの達成感、同じ志を持った仲間との切磋琢磨の日々、上陸するときの刺激…。不安だった気持ちは忘れてしまうほどの経験でした。

印象に残ったことは、ハワイへ向けた帆船「日本丸」による航海です。力を合わせ帆を繰ることで協調性と根性を培いました。そしてマグネットコンパスを用いた航海術や、生活の根底をなす生活排水に係わるチームで配管やポンプ、装置について学ぶことで船への理解を深めることができました。

また、汽船「青雲丸」、「銀河丸」での6ヶ月実習は、世界最大級の港シンガポール港に向けての調査や、気象・海象・船舶の性能などを考慮して航海計画を立てていく、より実践的な実習になりました。特にシンガポールへの航海では、往復とも台風の動きに注目する必要があったので、高気圧や台風によるうねりなどの影響を考えるなど、緊急の事態にも対応できる知識・技能を修得できました。

この一年間の実習は、なれない船上での生活の中で、コミュニケーション能力や積極的に行動する姿勢、実用的な技術を学び研鑽できる、すばらしい時間でした。練習船の士官の方、実習で身についた技術の種を育ててくださった学校の教職員方、そしてともに支えあった仲間に感謝し、この五年半で積み重なったすべてを糧に、今後も精進する所存です。

令和元年度 商船学科卒業生 就職先一覧

（50音順）

上野トランステック株式会社	宇和島運輸株式会社	オーシャン東九フェリー株式会社
鹿児島船舶株式会社	共和産業海運株式会社	株式会社霧島海運商会
近郵船舶管理株式会社	ケイラインローローバルクシップマネージメント株式会社（旧大洋日本汽船株式会社）	佐藤國汽船株式会社
三翔海運株式会社	三洋海事株式会社	ジャンボフェリー株式会社
ショクユタンカー株式会社	株式会社新来島どっく	株式会社スチールハブ
摂予汽船株式会社	第一中央汽船株式会社	田頭海運株式会社
東慶海運株式会社	日東タグ株式会社	日本曳船株式会社
早駒運輸株式会社（クルーズ客船）	久本汽船株式会社	琵琶湖汽船株式会社
福寿船舶株式会社	株式会社マキタ	

令和元年度 商船学科卒業生 進学先一覧

弓削商船高等専門学校　専攻科		

令和元年度
専攻科（海上輸送システム工学専攻）入学式

令和元年10月1日（火）10時30分より、本校第一会議室において、校長、専攻科長、各主事・副校長、学科長臨席のもと、令和元年度専攻科（海上輸送システム工学専攻）入学式が挙行されました。式は、入学許可、入学生による宣誓、校長式辞と滞りなく進み、新入生2名が入学を許可されました。

校長から、「皆さんが身につけなければならない能力には、海運業界のデジタル化に対応できる高度な工学的センスが必要不可欠になります。情報工学科があり、生産システム工学専攻もある本校の教育環境を有効に活用して、二年間を充実したものとしてください」と式辞がありました。

令和元年度 後期級長・副級長・学級担任一覧

学　科	商船5年	電子5年	情報5年	商船4年	電子4年	情報4年
級　長	正木　崇善	武田　竜介	竹下　都倭	－	渡邉　亮汰	旗手菜々子
副級長	鈴木　凌大	石川　敬太	山本　妙	－	岡田　健生	中司　泰誠
学級担任	筒井　壽博	福田　英次	徳田　誠	柳沢　修実	長井　弘志	塚本　秀史

学　科	商船3年	電子3年	情報3年	商船2年	電子2年	情報2年
級　長	井上　伸	徳岡　青樹	荒木　海渡	中井　冴風	住田　凌真	杉本　紗英
副級長	佐藤沙耶香	鳴川　匠	矢尾優美香	岩部　悠紀	奥田　晟二	村上ヒカリ
学級担任	秋葉　貞洋	大根田浩久	石田　紗瑛	池田　真吾	冨永　亮	伊藤　武志

学　科	商船1年	電子1年	情報1年
級　長	田頭　佳乃	上野　智貴	藤木沙弥華
副級長	佐藤　海	宮地　巧翔	原　ほのか
学級担任	藤井　清治	日下　佳春	葛目　幸一

国際交流参加者一覧

参加プロジェクト	氏　　名
モンゴル科学技術大学との国際交流	三上　楽人（M4）　横山　友花（M4）　石川　敬太（M5）　清水　十夢（M5） 苅田　優海（生2）
海外語学研修（広島商船高専主催・フィリピン）	矢尾優美香（I 3）
NTMA（フィリピン商船大学）	獅々戸翔生（S 2）　清水　多聞（S 2）　金光　学史（S 3）　寺川　明範（S 3） 石川　直樹（S 4）　田村　安志（S 4）
MAAP（アジア太平洋海事大学）	相中　崇志（S 4）　太田崇一朗（S 4）　塩崎　一真（S 4）　菅澤　瑛二（S 4） 杉本　匡史（S 4）　高原　勝樹（S 4）　花村　拓海（S 4）　三島　亮太（S 5） 渡藤　優真（S 5）

コロラド州デンバー・ベアクリーク高校生との交流

7 月 24 日（水）にアメリカ・コロラド州デンバーのベアクリーク高校から高校生 25 名と保護者 22 名が来校し、商船学科 4 年生と交流しました。

アメリカ人の高校生と一部の保護者ひとりひとりに学生のバディをつけ、カレッジツアー、他者紹介、ソフトボールなど行いました。

本校学生たちが積極的に英語で話しかけて、アメリカの生徒たちも大変喜んでいました。一緒に参加していた保護者の人たちも非常に満足気で「日本人はもっとシャイだと思っていた」と言っていました。学生達がこれまでインターンシップなど様々な国際交流を続けてきたことが発揮されたと思います。

最後には、参加生徒の全員の名前が入ったチームユニフォームをいただきました。

モンゴル科学技術大学との国際交流

電子機械工学科　5年　**石川　敬太**

今回のモンゴル科学技術大学との国際交流インターンシップを通して、私はモンゴルへ行きました。これは、私にとって初めての海外渡航であり、日本を初めて外から見る機会となりました。

インターンシップを終えて、私は日本に対する危機感を持ちました。モンゴルは、日本と比べて経済的にはまだまだだと思います。しかし、モンゴルは、年々発展を続けており、今後の動き次第では、可能性は無限大だといえます。一方で日本は、経済的には世界でトップを争う国ですが、私達はこれが当たり前となり、成長することをやめているといえます。私達のこれからの行動が、日本の未来を決めると強く感じました。

▲電子回路に関する実習

モンゴルへ行く機会は、私にとって非常にプラスとなりました。私が知らない未知のことがたくさんあり、勉強になりました。また、自分を変える一つのきっかけになったと感じました。この経験を活かしてこれからの学生生活を歩んでいきたいです。最後になりますが、今回の国際交流インターンシップの機会を与えてくれた方々、現地で様々なことを教えてくれた方々、その他サポートしてくれた方々、本当にありがとうございました。

▲ウランバートル市内の大気測定

実施期間：令和元年8月21日（水）から令和元年9月3日（火）

実施内容：モンゴル科学技術大学の研究および関連する施設の見学（大学長との対談、学校施設見学、電子回路に関する実習、ウランバートル市内の大気測定、小型ストーブの排気ガス測定）、モンゴルの歴史や文化の体験（ABUロボコン観戦、ウランバートル市内観光、ハルハ河戦争慰霊碑訪問）、他

フィリピン留学(エミリオ・アギナルド大学)

情報工学科　3年　**矢尾　優美香**

私は、今年の夏休みを利用してフィリピンの首都マニラへ2週間の留学に行ってきました。広島商船高専が企画する中国・四国地方の3年生以上の高専生が対象で、海外経験の豊富な教員2人と行動を共にしました。フィリピンへの留学は、他の留学より安く行くことができ、物価も日本の半分とリーズナブルです。留学内容は、平日9時から12時と13時から15時のあいだ英語を勉強します。始めの1時間と最後の1時間はレクリエーションで、体や頭、英語を使ってみんなとゲームを楽しみました。後の学習時間は、マンツーマンで1時間ごとに先生と学ぶ内容が変わる授業でした。初めは、先生の英語を聞き取ることができず聞くのに必死でした。ですが2週間フィリピンで過ごすと、会話はもちろん、冗談まで言えるようになりました。授業が終わると近くのショッピングモールに行き晩御飯を食べました。そのショッピングモールはとても大きく三井アウトレットくらいの大きさがありました。そこには多くの飲食店があり日本食店も多くありました。フィリピンには、世界で4番目に大きいと言われるショッピングモールがあります。そこには時間がなく行くことはできませんでしたが、フィリピンで2番目に大きいと言われるショッピングモールに行くことができました。そこは遊園地とショッピングモールが2つくっついているような場所で多くのお店が入っていました。

留学先の学校では、日本語を学んでいる学生が数人おり、その子たちと「天気の子」を観に行きました。公開日だったため満席状態で感動のシーンでは、OHHH!!! と客席からたくさんの大きな歓声が飛び交い日本では考えられないなと思いました。

2週間と短い間でしたが、すごく楽しい毎日を送ることができました。これからより英語の勉強に励み、もっとコミュニケーションを取れるようにしたいです。

NTMA 留学で学んだこと

商船学科　2年
清水　多聞

私は今回、フィリピンのNTMA（フィリピン商船大学）で10日間過ごし、貴重な体験をさせて頂く中で大きな成長を遂げることが出来ました。

まず、私が特に成長出来たと感じているのは、外国人とのコミュニケーションです。私は初めての海外だったこともあり、多くの不安と緊張を持っていました。しかし、伝えたい事や知りたい事を思い切って英語で尋ねることで、英語に対する苦手意識は次第に消え、同時にコミュニケーションの重要性を学ぶことが出来ました。さらには、その会話の中でフィリピンの文化や歴史を学ぶ事も出来ました。

最後に、印象に残っているのは日本郵船の方からの話です。外航船の中ではどんなワークスタイルをしているのかや、外航船のメリット・デメリットなどを聞くことが出来ました。この話を聞いて、私の中では少なからず外航船への意欲が高まったと感じています。

フィリピンMAAP練習船体験乗船

商船学科　5年　機関コース　**三島　亮太**

僕は今回の実習で、MAAP（アジア太平洋海事大学）の方々と共に実習船で実習することにより英語の大切さと他の国の方々との交流の楽しさを学びました。

元々自分は英語があまり得意な方ではなく、今回の実習では不安な所があり、実際話してみるとやはり聴き取れない英語が多く初めはうまくコミュニケーションを取ることができませんでした。しかし、1日も経たない内に会話を聴いていると単語を部分ごとに聴き取れるようになりこちらからもコミュニケーションを取る機会も増え楽しく実習することができました。

実習では、全て英語で説明されるので聴き取ることが難しいことが多々ありました。特に操練での救命艇の降ろし方の説明は航訓で実際にやっていたことなのである程度は理解できたのですが、説明はなかなか聴き取ることができませんでした。そして、広島から名古屋に向かう夜間航海での当直では、航訓での実習がとても役に立ったと思います。機器の名前も英語で覚えていたので、エンジンルームも計測もスムーズに行うことができました。そして、この当直が実際船で仕事をしていく上での1番実践に近く、とてもためになりました。船の食事ではフィリピン料理を食べたのですが、味はとても美味しかったです。しかし、フォークやスプーンを使って鶏肉や魚、ご飯を食べていくのがなかなか慣れなくて食事に少し苦労しました。

実習がないフリータイムではみんなでお菓子を食べたりお互いの国の文化やプライベートなど色々な話をすることができ、外国人との交流の抵抗がなくなるので是非これからもこの実習を通して交流を深めていって貰いたいと思います。これは、体験しているからこそ言えることなのですが、この実習は確実にこれからの船乗りになる学生にとって、とても貴重でためになる実習になると思うので、この機会がどんどん増えていったらこの先船乗り業界も明るくなっていくのではないかと思います。

各種試験合格者一覧

（平成30年度9月～令和元年8月）

（学年は取得時）

●海技士（航海）

1　級　楠本春太郎（S4）　藤本　剛輝（S4）

2　級　藤本　剛輝（S3）　藤村　悠希（S5）　三井　望（S5）
山崎　哲久（S5）　阿部　航大（S4）　髙原　勝樹（S4）
友永　亮太（S4）

●海技士（機関）

1　級　島本　順（S4）　村上凜汰朗（S4）

2　級　島本　順（S3）　村上凜汰朗（S3）　池田　和樹（S5）
鈴木　辰茂（S4）　渡邊　歩夢（S4）　阿部大二郎（S3）
村上　舜哉（S3）

●小型船舶操縦士

1　級　野間　樹（S3）　楠本春太郎（S3）　山本　悠太（S3）

2　級　上杉　匠（S1）　内田　楽（S1）　清水　多聞（S1）
岡村　裕也（S1）　小段　一（M1）　佐藤沙耶香（S2）
横田　智拓（S2）　寄本敬一郎（S2）　馬越　英瑠（S3）
山下　正道（S3）　檀浦　紗弥（I4）

●実用数学技能検定

準2級　田頭　昌樹（I2）　原　楓子（I2）

3　級　拝郷　法華（S2）

●第二種電気工事士

岡田　健生（M4）　西村　賢仁（M4）　藤原　優伍（M4）
平丸　大貴（M3）

●QC検定

3　級　池田　裕希（I3）　伊藤　鴻希（I3）　岡野　志織（I3）
小川　莉穂（I3）　苅田　響（I3）　河野　真也（I3）
塩飽　航平（I3）　榊原　楓（I3）　田頭　直樹（I3）
高瀬　玄渉（I3）　多田　伊吹（I3）　田中　秀（I3）
田中　勇稀（I3）　藤山　響（I3）　中司　泰誠（I3）
旗手菜々子（I3）　松本　琴葉（I3）　宮地　香樹（I3）
阿部満理奈（I3）　甲斐帆乃佳（I3）　髙橋　舞有（I3）
日野　暢子（I3）　村上　愛莉（I3）　山田健太郎（I3）

●応用情報処理技術者

中神　悠太（I3）

●P検

準2級　内海　優作（M2）　岸　遼太（M2）　阿部満理奈（I2）
岩崎　花菜（I2）　越智　稜太（I2）　落畑　涼介（I2）
甲斐帆乃佳（I2）　鴨川　陽（I2）　岸田　一希（I2）
木村　晴喜（I2）　児玉　涼祐（I2）　杉田　隆哉（I2）
高尾　海靖（I2）　髙橋　舞有（I2）　髙原　未来（I2）
田邊　知也（I2）　豊田莱々歩（I2）　豊髙　晴陽（I2）
中神　悠太（I2）　長野　桃和（I2）　原田　樹（I2）
日野　暢子（I2）　前市京史郎（I2）　峯松　優作（I2）
村上　愛莉（I2）　村上　蓮仁（I2）　矢尾優美香（I2）
山田健太郎（I2）　要元　晶宇（I2）　加茂　真衣（I3）
冨永　英（I3）　吉原　大生（I3）　久米　桜華（I2）
久米　華蓮（I2）　原　楓子（I2）

3　級　井上　繕（I1）　今井　洸樹（I1）　沖津　真歩（I1）
金谷　咲弥（I1）　金山　裕星（I1）　小井川秀斗（I1）
小林　優輔（I1）　榊原　栞（I1）　澤村　飛鳥（I1）
杉本　紗英（I1）　田頭　昌樹（I1）　田房　希歩（I1）
當田　斐之（I1）　冨岡　由那（I1）　原　楓子（I1）
本田　渓太（I1）　三浦　康（I1）　三村　志音（I1）
向井　悠真（I1）　村上しずく（I1）　村上ヒカリ（I1）
山内　七聖（I1）　横山　敬美（I1）　和田　彩花（I1）
井上　華奈（I2）　下見　真生（I2）　益田慎乃祐（I2）

●マルチメディア検定

ベーシック　宇田川明夏（I3）

●CGクリエイター検定

エキスパート　旗手菜々子（I4）

ベーシック　旗手菜々子（I3）　黒飛　拓磨（I3）　田坂　百絵（I3）
藤原　望音（I3）　岡崎　鈴（I3）

●危険物取扱者乙種第4類

藤原いぶき（M3）

地域創生コーナー

本取り組みは、KOSEN4.0 プロジェクトの地域と学生達の関わりを深めていく地域創生演習の一環として、上島町と連携した実施事業です。本校は今後も離島の特性を踏まえ、離島工学に基づく防災・減災に精通した IoT 技術者の育成に取り組んで参ります。

瀬戸内国際ヨットラリー2019「弓削島」

例年開催されている「瀬戸内国際ヨットラリー」(主催：一般社団法人長距離航海懇話会(茨城県つくば市、代表理事：大野康一郎氏))が5月10日(金)から5月27日(月)まで開催され、本校が立地する弓削島にも5月10日(金)から5月12日(日)まで寄港し、世界各国の参加者を本校学生が「おもてなし」しました。

国内外の参加者(日・独・仏の3か国、計23名)に対し、本校の3年生から4年生の学生34名が、自主的に、ウェルカムパーティー、海岸でのバーベキュー、サイクリングによる島内観光案内、昼食会等の「おもてなし」を企画・立案し、3日間にわたり交流を深めました。

情報工学科は平成29年度、電子機械工学は平成30年度のカリキュラムの見直しにより、第3学年と第5学年に新たに「地域創生演習」という科目を新設しました。この科目は、学生自ら、積極的に地域と関わり、地域住民の方とともに、地域に潜む問題を発掘し、解決する「校外実習型」の科目です。本年度は、下級生を中心に上島町の特別養護老人ホームでのはなし相手やお散歩支援、上級生は、小学校での算数の補習(夢現塾)ボランティアとして活動しています。介護福祉の現場体験や車椅子に初めて触れた学生もおり、貴重な経験になりました。福祉ボランティアに参加した学生からは「ふるさとの良さを知ることができた」、「高齢化の現状について知ることができて良かった」等、また、補習ボランティア学生からは「子供達の意欲を向上させるためには、できる限り褒めることが大切ではないか」等の意見が聴かれました。今後は、CATV撮影補助や中学生を対象とした「ロボット・プログラム演習」など、活動の場を広げ、地域が抱える問題の発掘から解決までのプロセスを体験できる機会を提供できる科目に仕上げたいと考えています。

地域創生演習

老人ホームでの福祉ボランティア
・小学校での補習ボランティア

地域創生コーナー

徳島小松島乗船体験

商船学科　4年　**野間　樹**

徳島県小松島港で弓削丸体験航海をしました。来ていただいた小学校、中学校のみなさんはブリッジで舵を取って操船したり、コントロールルームで計器の説明を受けたり、デッキから望遠鏡で遠くの島や船を眺めたり、それぞれ思い思いに約1時間の船旅を楽しみました。車椅子で乗船した子も体験航海を楽しんでくれました。

体験航海を通じ海事思想の普及を図ることで地域に対しても大いに貢献できたと思いました。

公開講座

6月16日（日） バスケットボール教室　第1回
8月3日（土） 夏休みチャレンジキャンパス2019
- ●家庭で出来る簡単実験　●スターリングエンジンを作ろう!
- ●これが何かわかるかな?
  ～電子顕微鏡で小さいものを拡大してみよう～
- ●人工知能入門～AIを作ろう～
- ●熱の力を体験してみよう　●船長体験「操船シミュレータ」
- ●算数・数学の教科書はこれで作る!「KeTCindyでお絵かき」
- ●こんなゲームが作れるようになる!「アプレットゲームで遊ぼう!」
- ●ロボットプログラミングでドローンをとばそう
- ●簡単手作りオリーブ石けん
- ●作って納得!数学のふしぎ「一刀切りで手品をして遊ぼう」
- ●覚えておくと便利!役に立つロープワーク
- ●電子機械工学科おもしろ展示
- ●コンピュータでできるあんなことやこんなこと

9月7日（土） 芸予文化探訪講座
12月1日（日） バスケットボール教室 第2回
3月（予定） バスケットボール教室 第3回

42年振りの総合2位　団体優勝3種目

令和元年6月29日（土）から7月14日（日）の間に四国各地で開催された第５６回四国地区高等専門学校体育大会において、硬式野球、男子バスケットボール、男子剣道の３種目で団体優勝し、42年振りに総合順位で2位をおさめました。さらに、第54回全国高等専門学校体育大会においても、男子剣道は8月に山口県光市で団体の部で準優勝・個人の部で優勝と第3位、男子柔道は8月に鳥取県米子市で個人の部で3位に輝きました。

クラブ活動成績

第54回全国高等専門学校体育大会

■剣道競技（男子）	個人戦	優　勝	若田　泰希	（M5）
		第３位	若松　敬史	（Ｓ５）
	団体戦	準優勝		
■柔道競技（男子）	個人戦90kg超級	第３位	國貞　晴信	（Ｓ５）

第56回四国地区高等専門学校体育大会

■硬式野球競技		優　勝		
■バスケットボール競技（男子）		優　勝		
■バスケットボール競技（女子）		準優勝		
■剣道競技（男子）	団体戦	優　勝		
	個人戦	優　勝	中村　　博	（M5）
		準優勝	若田　泰希	（M5）
		３　位	若松　敬史	（Ｓ５）
■剣道競技（女子）	団体戦	準優勝		
■柔道競技（男子）	団体戦	準優勝		
	個人戦90kg超級	優　勝	國貞　晴信	（Ｓ５）
	90kg級	第３位	東　　数馬	（Ｓ３）
■柔道競技（女子）	個人戦63kg級	優　勝	荒木かなえ	（Ｓ１）
■水泳競技	男子100m平泳ぎ	第１位	中西　柊斗	（Ｓ５）
	男子50m自由形	第１位	中西　柊斗	（Ｓ５）
	男子200m自由形	第３位	佐光　　彪	（Ｉ５）
	男子400m自由形	第３位	岩部　悠紀	（Ｓ２）
	男子400mメドレーリレー	第３位	鈴木　凌大	（Ｓ５）
			中西　柊斗	（Ｓ５）
			松島翔生斗	（Ｓ５）
			佐光　　彪	（Ｉ５）
■ソフトテニス競技	女子ダブルス	第３位	岡　　美波	（Ｉ４）
			原　ほのか	（Ｉ１）
■バドミントン競技	女子ダブルス	第３位	佐藤　花菜	（Ｉ５）
			梨木　杏樹	（Ｉ５）
■テニス競技	女子シングルス	第３位	村上しずく	（Ｉ２）
	女子ダブルス	第３位	山内　七聖	（Ｉ２）
			村上しずく	（Ｉ２）
■陸上競技	男子走り高跳び	第１位	古岡　大空	（M3）
	男子円盤投げ	第２位	高瀬　玄渉	（Ｉ４）
	男子砲丸投げ	第３位	高瀬　玄渉	（Ｉ４）
	やり投げ	第３位	岡野　航大	（M5）
	男子4×100mリレー	第２位	福井　璃玖	（M5）
			逸見　太郎	（M4）
			古岡　大空	（M3）
			三村　志音	（Ｉ２）
	男子4×400mリレー	第２位	福井　璃玖	（M5）
			逸見　太郎	（M4）
			古岡　大空	（M3）
			三村　志音	（Ｉ２）

愛媛県高等学校総合体育大会

■陸上競技	男子走り高跳び	第２位	古岡　大空	（M3）

愛媛県高等学校東予地区総合体育大会

■陸上競技	男子走り高跳び	第１位	古岡　大空	（M3）
■バスケットボール競技（男子）		第３位		

東予陸上競技選手権大会

■陸上競技	男子走り高跳び	第２位	古岡　大空	（M3）

クラブ活動体験談

硬式野球部高専チーム　主将
情報工学科 5年　**若井　光**

我々、硬式野球部高専（高学年）チームは、今年18年ぶりに四国地区高専大会の優勝を果たし、全国高専大会へ出場しました。選手みんなが互いに支え合いながら、日々努力を積み重ねたことで、結果を出すことができました。私は、キャプテンとしては頼りないところもある存在でしたが、このチームで最高の仲間と出会えたことを誇りに思います。さらに、監督をはじめ顧問教員方の支援、学校教職員方・友達・OB・OGの応援、そしてなにより、一番近くでいつも支えてくれた家族の存在は、大きな力になりました。多くの方々

の支えがあってこその、四国地区高専大会優勝です。選手一同、心から感謝しています。

全国高専大会では、1回戦負けという悔しい結果に終わりました。来年は、この悔しさをばねに、後輩たちが全国高専大会優勝を成し遂げてくれると信じています。また、高校野球（低学年）チームも、夏の高校野球選手権に向けて日々練習を重ねています。どちらのチームも、来年は今年より良い結果を出してくれると思いますので、今後とも、弓削商船高専硬式野球部の応援をよろしくお願いします。

全国高専大会硬式野球 8月▶

剣道部　商船学科 5年　**桑田　槙之介**

昨年の四国地区高専大会では、準優勝で終わってしまい全国大会に出場することが出来ませんでした。その悔しい経験をして、今年の高専大会では全国優勝を目標にして稽古に取り組みました。稽古はとても厳しく、レギュラー争いの中で結果が残せないと不安で一杯になり、辞めたいと思うことも何度もありました。しかし、チームメイト同士で励ましあったり指摘しあったり、みんなで切磋琢磨しながら頑張ることができました。その中で新しい事にもチャレンジし、1人1人が明確な目標を紙に書いて道場に貼ったり、ミーティングの回数を増やしたりしました。四国地区高専大会では昨年全国優勝した高知高専を破り優勝し、全国高専大会の切符を掴むことができました。そして、目標にしていた全国高専大会で決勝戦の舞台に立ちましたが、代表決定戦で敗れました。試合終了の瞬間、取り組んできた思いが込み上げ、剣道部員全員から悔し涙が出ていました。45年ぶりに全国大会決勝で試合ができたことは、チーム一丸で稽古に励んだ地道な努力と、ご指導・サポートしていただいた方々のお陰で、感謝の気持ちで一杯です。5年生はこれで引退ですが、今後は叶えられなかった夢を実現できるように応援して行きます。

柔道部　商船学科 5年　**國貞　晴信**

商船学科5年機関コースの國貞晴信です。今回、鳥取県であった全国高専大会柔道競技で、3位という成績を収めることができました。4年生の時も3位という結果で、次こそは1位と思い日々練習に励みました。しかし、準決勝で怪我をしてしまい自分のベストを尽くせず負けてしまいました。負けた時は、あっけなく終わってしまったので悔しかったですが、今となっては良い思い出です。

兄の影響で始めた柔道でしたが、父が厳しく小さい頃から大きな相手と練習させられ、何度も泣きながら練習したことを今でも覚えています。そのおかげで、中学生の時には県大会で3位に入賞することができました。高校への進路ではスカウトもあり、柔道の強い学校に行こうとも考えましたが、父に母校でもある弓削商船高専を薦められ本校を選び入学しました。柔道部は人数も練習時間も少なく、柔道を十分にする良い環境ではありませんでしたが、優しい先輩に恵まれ楽しく活動することができました。私が柔道部主将になった時には、どうやってチームを強くするかなど色々考え、3年生から今まで柔道部を引っ張ってきました。おかげで、積極性やリーダーシップなどが身についたと思います。柔道は正直、嫌いだったけど続けてきて良かったと思いました。何事も最後までやり遂げる事の大切さを自分自身、そして親から学びました。柔道を続けさせてくれた親には本当に感謝しています。柔道で学んだ心技体は自分の糧になると思います。それを活かして立派な社会人になりたいと思います。

各種行事のアルバム

校内体育大会　5月

四国地区高専大会水泳競技　7月

オープンキャンパス　7月

弓削丸　一日船長　7月

夏休みチャレンジキャンパス　8月

全国高専大会陸上競技　8月

えひめITフェア　8月

商船だより第98号掲載記事「チーム弓削商船」にて一部文章が欠落しておりましたので、お詫びいたしますとともに全文を掲載いたします。

チーム弓削商船高専

校長
石田　邦光

この4月に本校の校長として着任いたしました。前職は鳥羽商船高専の教務主事をしておりました。よろしくお願いいたします。

高専の技術者教育は、今日、海外でも注目され、新聞や雑誌等に特集記事がしばしば掲載され、その素晴らしさが紹介されていますし、社会から大いに期待されている高等教育機関であるといえます。国立高等専門学校機構の高専は、MCC（モデルコアカリキュラム：全国立高専の学生が最低限身につけるべき知識と技能）に基づく教育を行うことで教育の質保証を行っています。一方で、高校のような指導要領がないため、カリキュラムを組む上では、かなりの自由度があり、時代に応じた教育がしやすい環境にあると言えます。その意味では、進歩する技術教育の手法をいち早く取り入れ、効率的な成果を上げることができます。

今、世界はグローバル化が急速に進み、人工知能やIoTといったイノベーション技術が第4次産業革命を引き起こし、日本においてもSociety5.0の実現を目指しています。近い将来、現在存在する仕事の50%はAIに取って代わられるという予測さえあります。また、世界は人間と地球が抱える多種多様な課題（17の目標と169のターゲット）からなるSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の達成に向けて、いろいろな機関がこれまでになかった形で協働しようとしています。そこに求められているのは、単なる技術開発ではなく、時勢を捉えて社会に使われ、そして貢献できる社会実装です。このような激動の時代に高等専門学校が果たすべき、または担うべき役割は何でしょうか。そして、高専においてどのような学びを提供し、どのような人材を育成していかなければならないのでしょうか。校長としての思いを、この場を借りてお話ししたいと思います。

高専の学生に求められる学びは、教わることではなく、自分で考え疑問や課題を解決していくことであり、そうした知識と技術力を付けることです。そのためには、自ら進んで問題に取組み、行動し、解決の道を探ることが重要です。とわいえ、こうしたことに一人で取り組むことには限界があります。多くの場合は、仲間と共にチームを作り協力し合いながら切磋琢磨していくことになります。こうした経験こそが、社会で活躍できる素養を身に付けることにつながり、学生を大きく成長させてくれます。これからは、学校だけが学びの場ではありません。学校から飛び出して、多くの経験を積むことが必要になってきます。

弓削島を含む上島町は離島です。そして離島であるからこそ、多くの解決しなければならない課題があり、学びの素材に事欠きません。前任の井瀬校長先生は“離島工学”と名付けて、地域が抱える課題に「ものはこび」を得意とする商船学科と「ものづくり」を得意とする電子機械工学科・情報工学科の視点からアプローチする事を提案されていました。私もその考え方に大いに賛同するところであり、本校の学生の成長と学校の発展に結びつくとともに、お世話になっている地域にも貢献できるものと確信しています。

こうした学びを定着させていくためには、地域の方々との連携が不可欠であり、学生のみならず教員も一緒になって、学びの場を作っていく必要があります。この地域で抱えている課題は、日本中、いや世界中で存在し、その解決を待っているはずです。つまり、本校が地域と一緒になって取り組んだ課題解決は、世界にも通用するはずです。

こうした学びを構築するためにやらなければならないことは、たくさんあります。

地域の課題に取り組むからには、地域のことを学ぶことも、当然必要ですが、それでは視野が狭すぎます。極端な言い方をすれば、グローバルな考えや見方も必要です。そこに、思いもよらなかったアイディアが隠されている場合があります。

また、第4次産業革命の下で、社会が求める人材に必要とされているのは「技術的能力」+「アナログの人間力」です。この人間力の涵養にも、しっかりと取り組んでいかなければなりません。

さらに、課題に対して取り組む場合、行き当たりばったりで闇雲に取り組んでも結果は出ません。解決のためには論理的思考力や想像力が必要になってきます。つまり、こうした力を学生に付けさせるためには、情報リテラシー教育なども必要になってくるでしょう。

高専の卒業生に求められる能力は、今や中間技術者ではなく、より高度な知識と技能、そして高いレベルの人間力と解決力を持った人材です。

これらを実現させるために、チーム弓削商船高専は、一丸となって、取り組んで行きたいと思います。

弓削商船高等専門学校

学生相談室

相談室
ホームページ

利用案内

学生相談室からのお知らせ

これまでもメンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援を図っていましたが、2018年度からは、新たに非常勤のスクールソーシャルワーカーとカウンセラー、看護師を増員しました。

また、従来の「学生相談室」(カウンセラーによるカウンセリングが中心）に加え、新たに「第 2 学生相談室」（学習面の支援が中心）を設けるなど学生支援体制を充実しました。

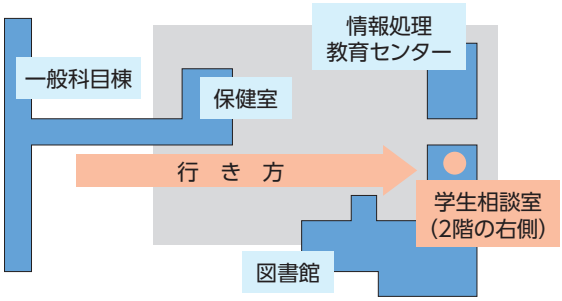
在学生に関する相談であれば、ご家族からの相談も受け付けています。問い合わせ先は、保健室です。

学生相談室の体制

●専門家の相談員

一人で悩んだり考え込んだりせず、気軽に相談にするよう、学生に案内しています。学生の合意を得て関係教員と連携して対応を考える場合もあります。お子さまが困っていそうでしたら、ぜひ学生相談室をお勧めください。

曜日	時間	担当	資格
月･火	12時～18時	桝谷亜由子	カウンセラー
火	15時～18時	春田　裕和	学習相談員
水	12時～17時	坂本　和夫	スクール ソーシャルワーカー
木 金	14時～19時 12時～17時	真鍋　一水	カウンセラー



予約方法

方法①:「保健室」で予約を取る。
方法②: 担任教員を通して予約を取る。
方法③: counsellor@yuge.ac.jp にメールを送る。

●各学科教員の相談員

気軽に研究室に相談に来てください。
話を聴いてもらうだけで気持ちが軽くなるかもしれません。

野口　　隆　学生相談室長・総合教育科教員
水崎　一良　総合教育科教員
二村　　彰　商船学科教員
森　耕太郎　電子機械工学科教員
桝田　温子　情報工学科教員

看護師2名体制

相談窓口

8 時 30 分～ 17 時　若松　純子
心と体の健康をサポートするため、保健室で勤務しています。学生相談室の窓口を担当します。0897−77−4619
（不在時は学生支援係　4621）

16 時～ 20 時　森本　利恵
部活動など放課後のケガや病気の学生に対処します。18 時以降は主に寮で勤務しています。体調の悪い寮生の部屋を訪問して対応することもあります。

学外機関に相談

電話相談

【KOSEN健康相談室】
0120−50−24−12
24時間年中無休
学校名を告げる必要はありますが、匿名で相談できます。

【こころの健康相談統一ダイヤル】
0570−064−556
月・水・金曜日　9 時～ 12 時、13 時～ 15 時
愛媛県心と体の健康センター：電話をかけた所在地の「心の健康電話相談」に接続されます。

【一般社団法人　社会的包摂サポートセンター　】
0120−279−338　24時間年中無休

【特定非営利活動法人　BOND プロジェクト 】
070−6648−8318　（若年女性対象）
火・木・日曜日　16 時～ 19 時

【特定非営利活動法人　チャイルドライン支援センター】
0120−99−7777　（18 歳以下対象）
毎日 16 時～ 21 時

【一般社団法人　日本いのちの電話連盟】
0570−783−556　毎日 10 時～ 22 時
0120−783−556　毎月 10 日　8 時～翌朝 8 時

毎月、学生相談室だよりを発行して、教室に掲示しています。
学校ホームページにも掲載していますのでご覧ください。